

岐阜市の一体的実施

平成24年4月2日事業開始

市とハローワークが連携して、市役所福祉事務所生活福祉課内のはたらき支援ルームにて職業紹介等を実施。

市

市役所庁舎内の提供

国

職業紹介・職業相談の実施等



① 事業内容

- ・就職支援ナビゲーターより、市役所福祉事務所生活福祉課内のはたらき支援ルームで生活困窮者に対して求人情報の提供、職業相談や職業紹介を実施

② 協定・事業計画

- ・岐阜市長と岐阜労働局長の間で協定(*)を締結
- ・数値目標を盛り込んだ事業計画を岐阜市と岐阜労働局の間で策定

* 協定の実施等について相互に要望することができ、出された要望には誠実に対応する旨を規定。



この協定の締結により、生活困窮者の早期就職に向けた就労支援の強化・充実が図られ、自立への支援の一層の強化と利便性向上を実施。

(1) 実施体制

岐阜市

- ・ 面接相談員、就労支援員、キャリアカウンセラー、ケースワーカーを配置

国(ハローワーク岐阜)

- ・ 就職支援ナビゲーター2名を配置
- ・ 求人情報提供用のパソコン1台を配置

(2) 事業目標と取組状況(8年度)

事業内容	事業目標(年度)	取組状況 (令和8年8月末時点)
生活困窮者に対して求人情報の提供、職業相談、職業紹介等の実施	利用者数 2,000名 支援対象者数 180名 就職者数 256名 就職率 41.3% (参考)前年度目標 ・利用者数 2,000名 ・支援対象者数 180名 ・就職者数 231名 ・就職率 41.3%	利用者数 450名 支援対象者数 57名 就職者数 75名 就職率 19.3% (参考)前年同月実績 ・利用者数 796名 ・支援対象者数 76名 ・就職者数 96名 ・就職率 18.4%

一体的実施事業（岐阜市）による就職成功例

女性：60代 ・希望職種：清掃

① 求職者の課題

・H23年から生保。別世帯の息子が離婚状態になり小学校3年と1年の2人の子どもを引き取ったが、仕事があり世話が出来ないと、近くに住む本人が世話をすることに。本人は甲状腺の持病で毎月通院中。

② 紹介の経過

・就労支援は今回が3回目。前回の支援期間中のR1年に就職。6年ほど継続していたにもかかわらず上記の理由により離職。ただ本人に孫の世話をする義務はないため、担当ケースワーカーから就労を促される。息子は朝早く夜も遅い仕事に就いており、朝夕の食事の支度はもとより、まだ小学校低学年のため登下校時の送り出しや出迎えなど、誰かがやらなければならない状態だった。本人も自分の立場は理解しているものの板挟み状態になり、就労支援員と言い争いになるなど精神的に参っていた。そのため、子（孫）育てに影響のない時間帯で仕事を探すことを明確にして折り合いを付けたことで前向きな姿勢に変わっていった。

③ 結果

・紹介就職 パート マンション清掃

④ 職業相談員の所感

・今回の事例は問題が2点あった。1点は、本来であれば息子が学童保育に預けるなどの支援を受けることが望ましかったが、息子の妻は子どもを置いて家を出てしまい連絡も取れず、正式に離婚もしていない状態だったので、ひとり親としての支援を受けられないと思っていた、またそういった知識や情報もなかったこと。もう1点は、せっかく6年も継続出来ていた仕事だったので、辞める前に担当ケースワーカーや福祉の窓口相談する必要があったこと。少なくともそうすることで1人で抱え込まずに解決策を見出せた可能性があったと思われる事例。

⑤ 本人のコメント

・「自宅から自転車で通勤出来るし、慣れた仕事に就けたので、しばらくは仕事と孫の世話を両立し頑張ってみます。」